



平成 23 年 12 月 13 日

「原子力安全」調査専門部会
第 7 回放射線影響分科会会合議事録

平成 23 年 12 月 3 日 13:00 から、第 7 回放射線影響分科会を開催した。議論された主な内容は以下のとおりである。

- (1) 緊急時対応に関する提言について
- (2) 福島除染対策対話フォーラムについて
- (3) 放射線分科会のポジションステートメントについて
- (4) 国際シンポジウムについて
- (5) これまでの活動のとりまとめについて
- (6) ワーキンググループの設置について

(1) では、前回委員会以降に緊急提言としてメール審議した「住民避難等の防護対策のあり方について」(11/9HP 公開) の概要について説明があった。

(2) では、11 月 27 日に福島市で開催された第 1 回安全・安心フォーラムについて、本分科会が説明した内容について報告があった。今後も年度内に数回の対話フォーラムが予定されており、分科会として対応していく旨、了承された。また、説明資料については、第 1 回の結果をもとに追加、修正を行うこととした。

(3) では、ポジションステートメント WG でのテーマ検討状況について説明があり、議論がなされた。今後は、部会だけでなく分科会としてもポジションステートメントを提言できるようにしていくこと、WG で挙がっている本分科会関連のテーマとしては、「環境放射線が比較的高い地域の放射線健康管理について」などがあるとのことであった。

これに対し本分科会としては、すでに保健物理・環境科学部会が出している「低レベル放射線健康影響」をブラッシュアップすべきではないかとの意見があった。これらの意見を踏まえ、上記ポジションステートメントをもとに、放射線影響分科会と保健物理・環境科学部会と合同で案を作成することとなった。

(4) では、10 月 30 日及び 11 月 1 日に開催された原子力安全国際シンポジウムでの発表内容についての説明があった。この内容については、放射線影響分科会の活動報告(2)として取りまとめを行う予定である。

(5) では、学会(原子力安全調査専門部会)として、これまでの各分科会活動のとりまとめについて説明があり、議論がなされた。

具体的な報告書の公開方法等は未定であるが、放射線影響分科会としては、これまでに公開している提言等も含め、分科会の活動をすべてまとめて報告してはどうかとの意見があった。

(6) では、政府発表値と異なる放出量推定結果(Xe133: 1.5 倍、Cs137: 2 倍)が先日 Nature に発表されたことから、関連する研究者によりこれらの内容について検討を行うため、放射線影響分科会の下に WG を設定することが提案され、了承された。

以上